

達第四百號

歳入歳出取扱規程中左ノ通改正シ大正三年度九月分ヨリ之ヲ施行ス

大正三年八月八日

海軍大臣 八代 六 郎

第二十二條 收入官吏前條ニ據リ計算書ヲ提出セントスルトキハ所屬長ハ現金出納簿ト
ノ符合及現存金額ノ正確ヲ保證スヘシ
第四十二條第二項ヲ左ノ如ク改ム

現金前渡官吏前項ニ據リ仕拂計算書ヲ提出セントスルトキハ所屬長ハ該計算書ト現金
出納簿トノ符合及現存金額ノ正確ヲ保證スヘシ但シ外國又ハ遠隔ノ地ニ在テ所屬長自
ラ保證シ能ハサル場合ハ先任官又ハ他ノ官吏ノ保證ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

正 誤

大正三年達第九十八號海軍喇叭譜改正海軍喇叭譜目次及用途呼集之部中「第二十號ノ行
用途」ハ「第二十號ノ行譜名」、「第二十二號ノ二」ハ「第二十號ノ二」ノ誤

海軍省副官

百十五

海 軍

1918

昭和十三年八月十二日
大正十三年八月十二日
改正

改正

達第百五號

雜役船及除籍艦艇取扱規則左ノ通定ム

大正三年八月十二日

海軍大臣 八代 六郎

雜役船及除籍艦艇取扱規則

第一條 雜役船ハ其ノ所屬部隊、應所在ノ海軍區ヲ管轄スル鎮守府ヲ以テ其ノ本籍トス
但シ艦船附屬ノモノハ其ノ艦船ノ本籍ヲ以テ本籍トス
第二條 艦船、部隊、艦長ハ毎年四月一日及十月一日附ヲ以テ別紙様式ニ依リ所屬及保管
雜役船ノ現狀報告ニ通テ調製シ各一通ヲ本籍鎮守府司令長官及海軍大臣ニ提出スヘシ
但シ救難船及浮船渠ニ限リ修理又ハ故障等ノ爲一ヶ月以上使用ニ堪ヘサル場合ニハ其
ノ都度臨時現狀報告ヲ提出スルヲ要ス

第三條 雜役船機關ノ取扱ハ適用シ得ル限り艦艇機關取扱教範ニ依ルヘシ又其ノ艦水壓
試驗、切開試驗並鐵通試驗ハ適用シ得ル限り艦艇定期水壓試驗、定期切開試驗並鐵通

百十六 海軍

試驗規則ニ依リ施行スヘシ但シ試驗臨檢官ヲ省略スルコトヲ得

第四條 艦船、部隊、應所屬ノ雜役船定數超過、老朽、引換又ハ破損等ノ爲メ不用ニ屬シタ
ルトキハ其ノ引換ニ因ルモノハ直ニ、其ノ他ノ場合ニ於テハ本籍鎮守府司令長官ノ認
許ヲ經テ所屬海軍港務部ニ還納スヘシ但シ已ムヲ得サル事由アルトキハ本籍鎮守府司
令長官ノ認許ヲ經テ最寄海軍港務部ニ還納スルコトヲ得

海軍港務部所屬ノ雜役船ハ前項ニ準シテ港務部長之ヲ還納船艇ニ編入スルモノトス
艦船ニ搭載セル短艇ノ還納手續モ亦本條ニ依ル

第五條 海軍港務部長還納船艇ヲ受領シタルトキハ直ニ其ノ還納元、船種、船名若ハ公稱
番號(公稱番號ナキモノハ其ノ要目即チ長、幅、深、排水量、船材、主機械、罐、補助機械ノ
型式及數並評定價格)還納ノ理由及ヒ受領又ハ還納船艇ニ編入月日ヲ記シ機裝品及機
關附屬物アルモノハ其ノ目錄ヲ添ヘ本籍鎮守府司令長官ヲ經テ海軍大臣ニ報告スヘシ
還納雜役船ニ搭載セル短艇ハ之ヲ本船ヨリ分離シ前項ニ依リ處理スヘシ

第六條 鎮守府司令長官ハ海軍工廠長ヲシテ還納船艇ヲ検査セシメ將來使用ノ見込ナク

1919

且修理ヲ加フルノ價值ナシト認ムルモノハ廢船艇トシテ通常物品ニ編入シ其ノ内造船、造兵材料ニ適スルモノハ同材料ニ元受セシメ其ノ他ハ同工廠ヲシテ賣却セシムヘシ但シ機動装置又ハ特種ノ機械ヲ有スルモノヲ廢船處分セムトスルトキハ豫メ海軍大臣ノ認許ヲ受クヘシ

第七條 海軍工廠長前條ニ依リ廢船艇、機裝品又ハ機關附屬物ヲ造船造兵材料ニ元受シタルトキハ其ノ品名及見積價格、又賣却處分シタルトキハ其ノ賣却年月日、賣却代價、豫定價格及買受人ノ職業住所氏名ヲ一箋毎ニ明記シ本籍鎮守府司令長官ヲ經テ海軍大臣ニ報告スヘシ

第八條 鎮守府司令長官ハ還納船艇検査ノ結果廢船艇トシテ處分セサルモノハ海軍港務部長ヲシテ之ヲ保管セシムヘシ
海軍港務部長ハ適宜帳簿ヲ備ヘ船艇及其ノ機裝品、機關附屬物ノ受授並現狀ヲ明ニスヘシ又其ノ保管中ノ船艇ヲ廢船艇トシテ工廠へ引渡シタルトキ或ハ其ノ所屬ヲ定メラレ他ニ引渡シタルトキハ其ノ旨海軍大臣ニ報告スヘシ

海軍

百十七

第九條 鎮守府司令長官ハ所屬海軍港務部保管ノ雜役船又ハ第十二條ニ依リ部隊廳長ニ於テ保管中ノモノヲ艦船、部隊、廳ニ附屬セシムルカ又ハ艦船ニ搭載セシメントスルトキハ其ノ理由ヲ具シ海軍大臣ノ認許ヲ受クヘシ但シ臨時ノ必要ニ應スル一時ノ使用ハ鎮守府司令長官限り之ヲ認許シ其ノ旨海軍大臣ニ報告スヘシ其ノ返納セルトキ亦同シ
第十條 鎮守府司令長官ハ臨時ノ必要ニ應シ所屬艦船、部隊、廳所屬ノ雜役船ヲ一時限り貸借使用セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ理由ヲ具シ其ノ旨海軍大臣ニ報告スヘシ其ノ返納セルトキ亦同シ

第十一條 艦船、部隊、廳長其ノ所屬又ハ保管ノ雜役船若ハ其ノ雜役船ニ搭載ノ短艇ヲ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ所屬長官ヲ經テ本籍鎮守府司令長官ニ報告シ本籍鎮守府司令長官ハ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第十二條 還納スヘキ船艇ニシテ本籍鎮守府所屬海軍港務部ニ回送シ難ク又ハ回送スルヲ不利益ト認ルトキハ鎮守府司令長官ハ其ノ船艇ノ所屬若ハ所在地ノ部隊、廳長ニ其ノ保管ヲ命シ若ハ委託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第六條ノ検査並賣却處分モ亦右

1920

ニ準スルコトヲ得但シ之ニ關スル事後ノ整理及報告ハ總テ前各條ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第十三條 軍艦、驅逐艦、水雷艇又ハ潜水艇帝國艦艇籍ヨリ除カントキハ其ノ艦艇長ハ次ノ如ク處理スヘシ

- 一、兵備品、儀裝品、機關附屬物ハ之ニ關スル帳簿及ヒ書類等ヲ添ヘ各關係廳ニ送納スヘシ但シ取外シ困難ナルモノ又ハ取外スノ要ナシト認ムルモノハ鎮守府司令長官ノ認許ヲ經テ之ヲ艦艇内ニ殘置スルコトヲ得
- 二、御眞影、勅諭ハ本籍鎮守府ヲ經テ海軍省ニ返送スヘシ
- 三、記念軍艦旗、御下賜品及記念物品ハ經歷書ヲ添ヘ本籍鎮守府ニ納入スヘシ
- 四、船體、機關並艦内ニ殘存スル一切ノ物品ハ目錄及ヒ必要圖面ヲ添ヘ之ヲ本籍鎮守府所屬海軍港務部長ニ引渡スヘシ

五、前記以外ノ記錄及ヒ重要書類ハ總テ之ヲ本籍鎮守府ニ納入スヘシ

第十四條 除籍艦艇ハ除籍前ノ本籍鎮守府ヲ以テ其ノ本籍トシ所屬海軍港務部長之ヲ保

管スルモノトス

第十五條 海軍港務部長除籍艦艇ヲ受領シタルトキハ之ヲ鎮守府司令長官ニ報告シ第八條ニ準シ整理スヘシ但シ其ノ搭載短艇ノ處分ハ第五條末項ニ依ル

鎮守府司令長官ハ所屬海軍工廠長ヲシテ直ニ艦首御紋章及艦名文字ヲ取外サシムヘシ

第十六條 除籍艦艇ノ廢却ハ特令ニ依ル又其ノ處分ハ第六條第七條ニ準據ス

前項ノ外除籍艦艇ノ取扱ハ總テ雜役船ニ準ス

第十七條 海軍工作船、海軍病院船及海軍運送船ノ廢船處分ハ第十三條乃至第十六條ヲ準用ス

	船名又は 公稱番號	船種	現狀摘要	大修理 要スル 年月	引替 スル 年月	備考
	關機					

(甲様式)

雜役船現狀報告

艦船部隊廳長

大正 年 月 日調

(機働船ノ部)

1922

					船名又は 公稱番號
					船種
					船體及 噸裝
					大修理 ヲ要スル 年月
					引替 ヲ要スル 年月
					備考

雑役船現状報告
(非機働船ノ部)
艦船部隊廳長

大正 年 月 日 調

(乙様式)

1923

達第百六號

明治三十五年達第八十二號、同年達第八十三號、明治四十年官房第四〇二六號、同年達第百四十一號、明治四十一年達第一號及明治四十一年官房第三一〇五號ヲ廢ス
大正三年八月十二日 海軍大臣 八代 六 郎

參照

明治三十五年達第八十二號ハ雜役船ノ本籍ヲ定ムル件
全年達第八十三號ハ雜役船ノ廢却及廢却手續
明治四十年官房第四〇二六號ハ除籍軍艦ノ艦首御紋章撤去並保存ノ件
明治四十一年達第百四十一號ハ雜役船ノ定期檢査報告ノ件
明治四十一年達第二號ハ雜役船ノ定期水壓試驗定期切開試驗並發進試驗ニ關スル件
明治四十一年官房第三一〇五號ハ除籍軍艦ノ搭載船隻運納ノ件

1924

達第百七號

海軍無線電報取扱規約附表第一遞信省船舶局名路符號日本郵船ノ部中安藝丸ノ次ニ左ノ
通追加ス

大正三年八月十二日

海軍大臣 八代 六郎

J K R 香取丸

百二十

海軍

1925

達第百八號

海軍給與令施行細則中左ノ通改正ス

大正三年八月十四日

海軍大臣 八代 六郎

第五十七條ノ二 給與令第四十七條ノ手當ハ九十五圓ヲ給ス

附 則

本達ハ大正三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

百二十一

海軍

1926

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

達第百九號

明治三十七年三月達第五十二號兵器經理規程別表第四號「距離測定儀」ノ次ニ「三年式側方彈著觀測器」ヲ追加ス

大正三年八月十六日

海軍大臣 八代 六郎

達第百十號

海軍官印規程中左ノ通リ改正ス

大正三年八月十六日

海軍大臣 八代 六郎

第二條中「軍令部」ノ下ニ「艦政本部」ヲ「教育本部」ノ下ニ「水路部、臨時建築部」ヲ加ヘ但書中「本省」ノ下ニ「艦政本部、教育本部、水路部、臨時建築部」ヲ加フ

百二十二

海軍

1927

達第百十一號

雜役船駒橋丸ヲ帝國軍艦ト定メ駒橋ト命名セラル

大正三年八月十六日

海軍大臣 八代六郎

達第百十二號

艦艇類別等級別表中海防艦ノ欄「松江」ノ次ニ「駒橋」ヲ加フ

大正三年八月十六日

海軍大臣 八代六郎

達第百十三號

舊軍艦豊橋ヲ豊橋丸ト命名ス

大正三年八月十六日

海軍大臣 八代六郎

百二十三

海軍

1928

達第百十四號

海軍無線電報取扱規約附表第一海軍艦(船)名略符號中左ノ通改ム

大正三年八月十八日 海軍大臣 八代 六郎

二等海防艦ノ部中「JUU 豊橋」ヲ「JUU 駒橋」ニ改ム

雜役船ノ部中「JJZ 駒橋丸」ヲ削除ス

運送船ノ部中若宮丸ノ次ニ「JJZ 豊橋丸」ヲ加フ

三等驅逐艦ノ部中「JQY 朝霧」ヲ削除ス

達第百十五號

軍艦駒橋及運送船豊橋丸ニ左ノ通信號符字ヲ點付ス

大正三年八月十八日 海軍大臣 八代 六郎

GQCK 駒橋

GQJM 豊橋丸

1929

達第百十六號

海軍戰時給與規則施行細則中左ノ通改正ス

大正三年八月二十二日

海軍大臣 八代 六郎

第二十六條中「二十錢」ヲ「三十錢」ニ、「十五錢」ヲ「二十五錢」ニ、「十二錢」ヲ「二十錢」ニ、「十錢」ヲ「十五錢」ニ改ム

百二十五

海軍

1930

大正三年八月二十三日
 改正

達第百十七號

舊驅逐艦霞外五隻ヲ雜役船ニ編入シ其ノ船名及所屬左ノ通定ム

大正三年八月二十三日

海軍大臣 八代 六郎

舊驅逐艦名

新船名

附屬

霞 連 阜 月 文 月 敷 波 卷 雲

霞 丸 連 丸 阜 月 丸 文 月 丸 敷 波 丸 卷 雲 丸

佐世保防備隊臨時附屬

橫須賀防備隊臨時附屬

百二十六

海軍

達第百十八號

海軍戰時給與規則ノ増俸増給ヲ受クル者ニハ明治四十年勅令第八號ノ勤勉手當ヲ支給セ
ス但シ戰時給與規則ノ増俸増給ノ額勤勉手當額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ差額ヲ支給スル
コトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル勤勉手當ハ勤勉手當支給細則條三條ノ規定ニ拘ラズ其ノ月一日ヨリ
末日迄ノ分ヲ計算シ支給スルモノトス

大正三年八月二十四日

海軍大臣 八代 六郎

1932

達第百十九號

海軍戰時旅費規則中ノ通改正ス

大正三年八月二十三日

海軍大臣 八代 六郎

第一條ノ二 内地朝鮮臺灣關東州樺太露領樺太ヲ合ム旅行ニ在リテハ各其ノ定額ヲ支給ス

外國關東州露領樺太ヲ除ク旅行ニ在リテハ海軍戰時給與規則第二條第一項ニ依リ増俸ヲ給スル者ヲ

除クノ外各其ノ定額ヲ支給ス但シ海軍大臣ニ於テ特ニ指定シタル者ニハ目的地到着ノ

日ヨリ發程ノ日迄ハ定額以內ノ實費ヲ支給ス

前二項ノ協合ニ於テ定額拂ト實費拂ト跨ル日ノ日當ハ定額ヲ支給ス

第一條ノ五ヲ削ル

第一條ノ六ヲ削ル

第三條 海軍戰時給與規則ノ増俸ヲ給セラルヘキ官衙部隊艦船ニ勤務ヲ命セラレ赴任ス

ル者ニハ移轉料ヲ支給セス

百二十八 海軍

第三條ノ二 本規則實施中ハ支度料ヲ支給セス但シ特ニ海軍大臣ノ決裁又ハ認許ヲ經タ

ルモノハ此ノ限ニアラス

1933

達第百二十號

造兵造船職工臨時給與規則中左ノ通改正ス

大正三年八月二十三日

海軍大臣 八代 六郎

第四條第一項ヲ左ノ如ク改ム

職工ノ旅費ハ内地朝鮮臺灣關東州及樺太^{露領樺太ニ在リテハ海軍内國旅費規則第五表九等ノ定額ヲ支給ス但シ九人以上同行ノ場合ニ於テハ第六表九等ノ定額ヲ支給ス}

第四條第三項中「外國」ノ下ニ「^{露領}關東州^{露領}樺太」ヲ加フ

第五條 職工船舶乗組中又ハ戰地派遣中海軍工務規則第四十一條ノ場合ニ於テ支給スル賃錢及同則別表第四號第一ノ加給ハ本則第一條ノ増給ヲ加ヘタル額ニ依リ第四第五ノ加給ハ支那^{北緯三十七度以北ニ限ル}及亞細亞露領沿岸ニ在リテハ關東州ニ準スルモノトス
船舶乗組中又ハ戰地派遣中海軍工務規則別表第四號第九及備考第四號ノ加給ヲ支給セス

1934

達第百二十一號

明治四十一年達第九十四號中左ノ通改正ス

大正三年八月二十六日

海軍大臣 八代 六郎

第一號中「艦隊」ノ上ニ「出征艦船部隊、占領地、」ヲ加フ

第二號中「短剣ヲ佩用スルコトヲ得」ノ下ニ「戰時ニ於テ所在首席將校ノ指定アリタルト
キ亦短剣ヲ佩用スルコトヲ得」ヲ加フ

達第百二十二號

明治四十一年達第百五十六號中「臺灣」ノ上ニ「戰地、占領地、」ヲ加フ

大正三年八月二十六日

海軍大臣 八代 六郎

百三十

海軍

1935

大正十五年達
第一号附則ニ
依リ本号廢止



達第百二十三號

特設船舶部隊ニ於ケル海軍軍人以外ノ患者治療及之ニ關スル醫務取扱規程左ノ通定ム

大正三年八月二十六日

海軍大臣 八代 六郎

特設船舶部隊ニ於ケル海軍軍人以外ノ患者治療及之ニ關スル醫務取扱規程

第一條 特設船舶部隊ニ於ケル海軍軍人以外ノ患者治療ハ軍人軍屬ニ準シ施行シ之ニ關スル醫務ハ本規程ニ依リ處理スヘシ

第二條 特設船舶部隊ニ於ケル海軍軍人以外ノ患者ニ對シテハ別ニ診察簿、患者目錄、患者週報及處方箋ヲ調製スヘシ

第三條 診察簿ノ取扱ハ海軍軍醫官服務規則ニ依ル

第四條 患者目錄ノ取扱ハ左ノ如シ
一 本目錄ニハ病症ノ輕重ヲ問ハス受診患者ヲ悉ク登載スヘシ
二 本目錄ハ毎月月頭ニ更正セス最初ヨリ解散ニ至ルマテノ患者ヲ順次登載スヘシ

百三十一
海軍

三 本目錄ハ特設船舶部隊ノ軍醫長(軍醫官)及軍醫官ヲ置カレサル特設船舶ニ在テハ各其ノ所屬要港部軍醫長、防備隊軍醫長又ハ所屬鎮守府ノ海軍港務部軍醫長之ヲ保管スヘシ

四 本目錄ハ特設船舶部隊解散ノ際ハ速ニ醫務局長ニ提出スヘシ

五 本目錄ハ船員文官、雇員及
傭人ヲ含ム職工及人夫ニ區別シ調製スヘシ

第六條 患者週報ハ前條第五號ニ從ヒ區別シ調製スヘシ

第七條 特設船舶部隊解散ノ場合ニ於テハ海軍軍醫官服務規則第二十二號舊式ニ準シ全期間ヲ通シ病類ヲ區別シ第四條第五號ニ從ヒ疾病年報ヲ調製シ醫務局長ニ提出スヘシ但シ末尾ニ全期間ノ現員延數ヲ第四條第五號ニ從ヒ區別シ記入スヘシ

第八條 處方箋ハ海軍軍醫官服務規則ニ依ラス適宜假處方箋ヲ調製シ之ニ代フルコトヲ得
第八條 公務ニ原因スル傷痍疾病及戰地ニ於テ傳染病ニ罹リタル者ニ對シテハ負傷證書又ハ罹病證書ヲ調製スヘシ

第九條 傳染病ニ對シテハ海軍軍醫官服務規則ニ依リ設置スヘシ

第十條 前二條ノ患者及重症患者ニ對シテハ患者日誌ヲ調製スヘシ

第十一條 醫事日誌ノ現員、受療患者、就業受療患者、輕業、休業、送院及在院欄ニハ其ノ員數ヲ軍人、船員文官、雇員及船人を含む職工及人夫ニ區別シ記入スヘシ

第十二條 診斷證書、死亡診斷書、死體檢按書、死體檢按記事、部外依託患者報告及部外依託患者轉歸報告ノ調製ヲ要スル場合ニ於テハ海軍軍醫官服務規則ニ依ルヘシ

第十三條 特設船舶部隊ノ軍醫長(軍醫官)ハ各特設船舶部隊ノ船員、文官、雇員、傭人、職工及人夫ノ身體檢査ヲ行ヒ身體檢査證ヲ調製シ之ヲ醫務局長ニ提出スヘシ

前項ニ依ル身體檢査ハ海軍出身志願者身體檢査格例ニ依ルヲ要セス單ニ其ノ職務ニ堪フルヤ否ヤヲ目的トスヘシ但シ結核素質ノ疑アルモノ及瘰癧形等ニ關シテハ特ニ注意シ其ノ狀況ヲ身體檢査證ニ記入スヘシ

第十四條 軍醫官ヲ置カレサル特設船舶海軍軍人以外ノ患者治療及之ニ關スル醫務ハ本規程ニ依リ當該船舶ノ所屬要港部軍醫長、防備隊軍醫長又ハ所屬鎮守府ノ海軍港務部

軍醫長之ヲ處理スヘシ

第十五條 前條ノ特設船舶其ノ所屬軍港要港外ニアルトキ最寄ノ艦船部隊軍醫長(軍醫官)ハ特設船舶指揮官、監督官、監督官ヲ置カサルトキハ船長又ハ其ノ所屬要港部軍醫長、防備隊軍醫長若ハ所屬鎮守府ノ海軍港務部軍醫長ヨリノ請求ニ應シ海軍軍人以外ノ患者治療及之ニ關スル醫務ヲ處理スヘシ

第十六條 前條ノ場合ニ於テ其ノ請求ニ應シタル艦船部隊軍醫長(軍醫官)ハ第四條ニ依リ假患者日誌ヲ調製シ之ヲ當該特設船舶ノ所屬要港部軍醫長、防備隊軍醫長又ハ所屬鎮守府ノ海軍港務部軍醫長ニ移牒スヘシ

第十七條 艦隊所屬ノ特設船舶ニシテ軍醫長(軍醫官)ヲ置カレサルモノノ海軍軍人以外ノ患者治療及之ニ關スル醫務ハ當該艦隊司令長官適宜麾下艦船軍醫長(軍醫官)ヲ指定シ處理セシムヘシ

達第百二十四號

本年ニ限り海軍高等武官補充條例ニ依ル各候補生ノ勤務報告ハ十月一日ヲ以テ調製進達スヘシ

大正三年八月二十七日

海軍大臣 八代 六郎

百三十三

海軍

1938

達第百二十五號

海軍無線電報取扱規約附表第一 逓信省船舶局名略符號日本郵船ノ部中香取丸ノ次ニ左ノ
逓追加ス

大正三年八月二十八日

海軍大臣 八代 六 郎

J K A 賀 茂 丸

百三十四

海 軍

1939

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

達第百二十六號

明治三十七年達第五十六號海軍戰利品取扱規程中左ノ通改正ス

大正三年八月三十一日

海軍大臣 八代 六郎

第一條中「日露戰役ニ關シ」ヲ削ル

第三條第二項ヲ削ル

第八條 鎮守府司令長官ハ前條物品中處分ヲ了シタルトキハ其ノ結果ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

達第百二十七號

明治三十七年達第五十七號捕獲品取扱規程中左ノ通改正ス

大正三年八月三十一日

海軍大臣 八代 六郎

百三十五

海軍

第一條中「日露戰役ニ關シ」ヲ削ル

第八條 鎮守府司令長官ハ前條物品中處分ヲ了シタルトキハ其ノ結果ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

達第百二十八號

停年計算規則中左ノ通改正ス

大正三年八月三十日

海軍大臣 八代 六郎

第二條ニ左ノ一號ヲ加フ

四 戰時又ハ事變ニ際シ艦隊附屬ノ掃海隊及救難船ニ配置セラレタル日數

1940

國立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

達第百二十九號

經營需品經理規程別表第二號主計長主管ノ部ニ「月刊旅行案内類」ヲ追加ス

大正三年八月三十一日

海軍大臣 八代 六郎

百三十六

海軍

1941